

8-3.

メタバース空間を利用したオープンスペース
PBLの教育実践

(医学教育学分野)

○野平 知良、三苫 博

【背景】 これまでの ZOOM による PBL には時間制限、議論の活性化の難しさ、学生の通信環境、ファシリテーターの移動に問題点が指摘された。その問題を解決する目的で、メタバース空間における PBL を行った。

【対象・方法】 本学 4-5 学年の臨床実習において、メタバース (oVice) を用いたオープンスペース PBL を行った。PBL を行う上での ZOOM とメタバース比較に関し、学習者、教育者の観点から比較・検討した。

【結果】 メタバース空間におけるオープンスペース PBL により上述した 4 つの問題点は解決された。今後もメタバースウィを使用したオンライン学習を希望する旨のコメントが多かった。

【考察】 新しい問題点は指摘されたが、メタバースにおけるオープンスペース PBL は PBL を円滑に行うという選択であり、今後の医学教育におけるメタバース空間の有用性を実感させた。

8-4.

性・年齢別に見た新型コロナワクチン忌避に影
響を与える心理的要因

(公衆衛生学分野、感染制御部)

○町田 征己

(公衆衛生学分野)

菊池 宏幸、高宮 朋子、小田切優子、
福島 教照、井上 茂

(感染制御部)

中村 造、渡邊 秀裕

【目的】 新型コロナワクチン忌避は社会問題となっている。ワクチン忌避は若年者で多く、性別や年齢によってワクチンへの考え方が異なると報告されている。ワクチン忌避に影響する心理的要因として、Betsch らは 5C モデルを提唱しており、このモデルに基づいた研究が国際的にも広く行われている。

5C とは、ワクチンへの信頼 (信頼)、認識されている疾病危険性 (無頓着)、接種の物理的・心理的アクセスのしにくさ (障壁)、情報収集へのエンゲージメント (打算)、接種によって他者を守るという意味 (集団責任) のことである。そこで本研究はこれら 5 つの心理的要因と新型コロナワクチン忌避の関係を性・年齢別に明らかにすることを目的とした。

【方法】 本研究は令和 3 年度東京医科大学研究助成金を用いた研究である。ワクチン接種が本格化する前の 2021 年 4 月 25 日に 20-79 歳の男女 3,000 人に対してインターネット調査を実施した。調査時点での接種対象者には、ワクチンを接種する予定かどうかを、接種対象外の者には接種意向を尋ねた。接種対象だが接種する予定がない者と、接種対象外で受けたとは思わない・わからないと答えた者をワクチン忌避があると定義した。5 つの心理的要因は先行研究に基づいて調査票を翻訳し使用した。ロジスティック回帰分析を用いて、5 つの心理的要因と忌避の関係を性年齢別に明らかにした。

【結果】 回答に欠損のない 2,655 人を解析対象者とした。すべての性・年齢層において信頼と集団責任はワクチン忌避と負の関係を、打算はワクチン忌避と正の関係を認める一方、無頓着は関連を認めなかった。障壁は男性でのみすべての年齢層においてワクチン忌避と正の関係を認めた。

【結論】 啓発活動において、ワクチンへの信頼や集団責任 (予防接種によって他者を守るという意味) を高めることが検討したすべての年代に効果的であり、男性ではさらに障壁を下げる (接種の利便性を高める) ことが効果的と考えられた。